

リシガ天正年中賤ヶ岳ノ兵燹ニ罹リ漸衰ヘタリ此地ヲ上ノ郷片岡村ト稱セルヲ以テ何レノ頃ヨリカ片岡天神ト奉稱セリ降テ明治三年四月舊領主上總國飯野藩社格御改メアリテ往古ノ如ク草岡神社ト改稱セリ當社ノ鳥居ハ社ノ東方五町今市東野兩村ノ境北國街道ノ傍ナル社地ニアリテ石造ヲリ又口碑ニヨレバ社ノ南方三十余町下余吳村ニ木製ノ鳥居アリシガ慶長年中ノ大風ニ倒サレ再建セザリシト現今ハ國安池原ニテ修葺終ヲナシ毎年一月一日ニハ立合參詣シ供物ヲ奉リ全三日ニハ鏡餅ヲ奉獻セリ又八月二十五日ニハ今市東野文室ノ都合五大字立會ニテ祭典ヲ行フ例トシ余興ニ書踊ヲ舉行セリ明治九年十月村社ニ加ヘラレ明治十七年四月二十九日郷社ニ列セラレタリ

佐味神社

佐味神社ハ天正年中賤ヶ岳ノ兵火ニ罹リ古記録社殿ト共ニ烏有ニ歸セルヲ以テ詳ナラズト雖伊勢國二見ノ浦ナル佐味神社ヲ勸請セシ由古老傳ヘタリ往古ヨリ確乎タル延喜式内ノ神社ニシテ祭神ニ佐美持神ヲ鎮守スル事其御玉申今ニ存セルヲ以テ証スベシ

八幡神社(東野)

八幡神社ハ天正年中賤ヶ岳ノ兵燹ニ罹リタルヲ以テ其由緒ヲ詳ニセズト雖往古東野豊前守本村在城ノ砌ニ於ケル守護神ナリト云ヒ傳ヘ

安藝椽神社

安藝椽神社ハ草岡神社ノ末社ニシテ毎年一月二日ニハ村中ヨリ鏡餅ヲ供ヘ全七日ヲ例祭トシテ崇敬セリ

秋葉神社(文室)

秋葉神社ノ傳ニ曰ク往昔有信ト云フモノ村内火防守護ノ神トシテ遠州秋葉山ヨリ拜請シコヽニ安置セリト毎年一月十八日ヲ以テ祭典ヲ行ヘリ

大浴神社

大浴神社ハ元大浴ノ森ニアリキ大浴ノ森ハ杉樹繁茂シ其前方ヲ釜ヶ淵ト云ヒテ往昔大蛇此處ニ住シ通行ノ客ヲ惱シ人民ノ歎キ淺カラズ茲ニ因テ大蛇防禦ノ爲メ傍ノ大蛇浴ノ森ニ大巳貴命ヲ祀リ奉リケレバ大蛇退去シ人民安堵ノ思ヲナシタリト云ヒ傳ヘ又爾後兵乱ノ爲メ社宇廢亡ニ及ビ僅カニ御靈ノミ一ノ切岩窟ニ隱納シアリシガ兵乱鎮

稻荷神社(文室)

マリシ後御靈至ヲ稻御魂社へ合祀シタルモノナリト云ヒ傳フ
稻荷神社ハ天保七申年有信ト云フモノ五穀豊登養蚕盛功ノ祈願トシ
テ伏見ノ稻荷神ヲ勸請シタルモノナリト云フ

佛閣

榮昌庵	良福寺	西光院	明源寺	明正寺	景好寺	淨樂寺	法輪寺	寺號
釋迦如來	全	全	全	全	全	全	阿彌陀如來	本尊
曹洞宗	全	淨土宗鎮西派	全	全	眞宗大谷派	全	眞宗本願寺派	宗派
柳ヶ瀬	椿坂	中ノ河内	今市	小谷	柳ヶ瀬	東野	柳ヶ瀬	所在地

寶泉寺	全長寺	惠長寺	喜見庵	宣仙齋	正法寺	瑞昌寺	觀音堂	觀音堂	觀音堂	大日堂	藥師堂	藥師堂	十王堂	觀音堂	觀音堂
全	全	全	全	全	全	全	觀世音菩薩	觀世音菩薩	阿彌陀如來	觀世音菩薩	不世音菩薩	大日如來	藥師如來	地藏菩薩	觀世音菩薩
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
小谷原	全池	全池	東野	中ノ河内	全池	東野	文室	全池	全池	池	全池	全池	今市	全池	觀音堂

地藏堂	地藏菩薩	正法寺境内佛堂
地藏堂	全	宣仙齊境内佛堂
合堂	釋迦如來	東野
		全長寺境内佛堂
		原

淨樂寺

淨樂寺ハ天正年中兵燹ニ罹リシヲ以テ其由緒ヲ詳ニセズ

明源寺

明源寺ハ永正八年三月一日ノ創立ニシテ明治十六年九月火災ニ罹リ堂宇焼失セリ

西光院

西光院ハ應永十二年七月十八日ノ創立ニシテ越前國敦賀郡原村本寺淨土宗西福寺第一世良如和尚ノ開基ニ係レリ

良福寺

良福寺ハ應永五年五月五日ノ創立ナリ

寶泉寺

寶泉寺ハ往古天台宗ニシテ後又真言宗ニ轉シタリコレ本寺ノ東山ニ

全長寺

墓石アリ又口禪ニ存スルヲ以テ知レメシ其後享徳二酉年ニ無外和尚曹洞宗ニ改メタリ
全長寺ハ往昔全長ト云フモノ曹洞宗ヲ信仰シ當郡椿坂村曹洞宗桂照院住僧第二世願正全養和尚ニ從テ佛法ヲ修業シ僧トナリキ慶長二年ニ至リテ全長本村ニ一寺ヲ創建シ号ヲ全長寺ト稱シ桂照院ノ末寺トシシガ維新ニ際シ桂照院廢寺トナリシニヨリ更ニ慶田寺ヲ舉テ本寺トセリ

惠洞寺

惠洞寺ノ記録ニ曰ク往古ハ天台宗ニシテ指月庵ト稱セシガ長祿元年本村山本惣兵衛ト云フモノ曹洞宗ヲ信仰シ當郡菅並村洞壽院第四代以翼和尚ヲ招迎シテ當庵ニ閑居セシメ是ヨリ改宗シ曹洞宗トナリ更ニ惠洞寺ト改號セルモノナリト

喜見庵

喜見庵ハ天正中兵火ニ罹リ書類焼失セシニヨリ其由緒詳ナラズト雖モ記録ニ曰ク方安二年本村源次郎ト云フモノ當郡菅並村洞壽院住

僧第二代直岩和尚ノ弟子トナリ剃髮シテ喜公ト號セリ全年中一寺ヲ建立シテ喜見庵ト號セルモノナリト

宣仙齋

宣仙齋ハ嘉永六年四月類焼ノ災ニカ、リタルヲ以テ其由緒ヲ詳ニセズ

正法寺

正法寺ハ元和三年木村全長寺住僧第二世ニ峰宗種和尚ノ創立ナリ

瑞昌寺

瑞昌寺ハ元和元年本村全長寺住僧第二世一峰宗種和尚ノ創立ナリ

觀音堂(中ノ河内)

觀音堂ハ天保十四年三月ノ創立ニシテ本尊ハ聖德太子ノ御作ナリト云ヒ傳ヘリ

大日堂

大日堂ノ本尊ハ傳教大師ノ御作ナリト云ヒ傳フ其由來ヲ按スレバ池原村ノ東部新堂ノ西北ニ瑞昌寺ノ持山アリ之ヲ庵ヶ洞ト云フ往昔此處ニ天台宗ノ一寺アリキ即チ當寺ノ本尊ナリシト云フ中昔此寺ヲ瑞

昌寺ニ合シ本尊ヲ此處ニ安置シ以テ一覽ノ不祥ヲ鎮スルモノナリシト云フ

觀音堂(池原)

觀音堂ハ元天台宗ニシテ別所山万福寺ト云ヒ五十石ノ御朱印地ニテ惠心僧都ノ開基ナリト云ヒ傳ヘ本尊觀世音菩薩モ亦惠心僧都ノ御作ニシテ万福寺ノ本尊ナリト云ヒ傳フ後世織田信長公ニ燒キ亡ホカレシガ慶長年中ニ至リ堂宇ヲ再建セリ

藥師堂(國安)

藥師堂ハ天正年中賤ヶ岳ノ戰鬪ニ入り燒失ノ災ニ罹リシヲ以テ其由緒ヲ詳ニセズ

藥師堂(國安)

藥師堂ノ口碑傳説ニ曰ク當地ニハ往古奈良寺アリ天台宗ニシテ比叡山延暦寺ノ末派ナリ元龜年中織田信長ノ爲ニ燒キ亡サレタレモ境内藥師堂一字ノミ僅ニ其災ヲ免レタリコレ即コノ佛堂ナリト云フ後天正年中兵燹ニ罹リシカバ又再建セリ全口碑ニ曰ク此堂門ニ異形ノ龜顯レ恰モ蓋ノ蓋ノ如シ夜半ニ出テ南州ノ淵ニ沈ム故ニ堂龜ノ蓋淵ト

今ニモ曰ヒ傳ヘタルモノナリト又曰ク寛政年中夏日頑童數人來リ彼ノ佛像ニ向テ曰ク汝靈アルカ靈ナキカ若靈アラハ流チ昇ル可ナリト忽チ懷チ水ニ入ル奇ナル哉流ヲ昇ルコト三間余ナリ故ニ此川ヲフルフ川ト云ヘリト(今古川ト云フ)ソレニヨリ頑童恐レ本堂ニ戻シ置ケルモノナト文政年中重テ再建セリ

十王堂

十王堂ノ傳説ニ曰ク往古ハ曹洞宗ニシテ今市山總前寺ト稱シタリト元祿二己巳歲三月二十五日再建セリ開基ハ本村東野氏ノ出ニシテ僧道樹大和尚ト号セリ今ハ住僧ナシ

觀音堂(東野)

觀音堂ハ天正年中兵火ニ罹リシヲ以テ其由緒ヲ詳ニセズ

古跡

首塚

大字東野ノ南端北國街道ニ沿ヘリ賤岳ノ役ニ北軍戰死者ノ屍ヲ合理セシ処ナリ

孤塚

大字今市ノ中央北國街道ヨリ東ノ方凡二町ヲ隔テタル耕地中ニアリ柴田勝家が毛受勝助ニ金幣其他具足ヲ授ケタル跡ナリ

毛受兄弟之墓

大字池原字新堂ヨリ凡三町ヲ隔テタル北方ノ山麓ニアリ賤岳ノ役ニ北軍大ニ敗レ毛受勝助敵ヲ拒キテ戰死セシ所ナリ勝助ハ尾張國春日井郡稻葉村ノ人ナリ十二歳ニシテ柴田勝家ニ仕ヘ后小姓頭トナリ天性篤實ニシテ母ニ孝シ勝家ニ忠アリ賤岳ノ戰ニ北軍ノ敗走スルヤ勝助勝家ニ謂テ曰ク事急ナリ君早ク逃レ給ヘ臣請フ秀吉ヲ欺カント其金幣ヲ請フテ馬ニ乘リ自ヲ呼テ曰ク勝家兵ヲ起シテヨリ今ニ數年自ラ四十九戰ヲ歷テ當ル所碎破セザルハナシ人呼テ鬼柴田ト曰フ今賤而郎ガ爲メニ困シメラレ今日死ヲ決スト數十騎ヲ率ヒテ突戰ス勝家間ヲ得テ北莊ニ還ルコトヲ得タリ勝助之ニ死ス柴田氏ノ臣下ニ猛將謀臣多シト雖モ最后ノ一戰ニ臨ミ一人奇計ヲ出シ之ヲ救フ者ナク奔潰シテ崩ル、ガ如ク獨勝助死ヲ決シテ敵鋒ニ當テ死ス尤モ勝助ノ兄毛受左衛門モ此時共ニ戰死セリ其忠烈義氣真ニ感スベシ明治九年時ノ縣令籠手田安定氏ハ英雄崇拜ノ餘リ其事蹟ノ空シク湮滅センコトヲ

恐レ一碑ヲ建立シ毛受兄弟之墓ト題セリ
柳ヶ瀬關所

大字柳ヶ瀬ノ北端ニアリ今ハ廢シテ荒蕪ノ地タリ彦根城主井伊公ノ
主管ニテ婦女ノ往來ヲ檢察セシ所ナリ當時上士二人番役八人常ニ在
勤セリ

弘法大師ノ地

大字今市ノ北端街道ノ東半町程隔テタル耕地中ニアリ上古今市飲料
水ニ乏シク人民大ニ困苦セシヨアリ一日行脚僧來テ曰ク吾レ衆人ノ
タメニ水源ヲ求メントテ持テル杖ヲ以テ地ヲ穿テハ清泉俄ニ湧出テ
タリ依テ其近傍ニ大ナル池ヲ掘リ以テ飲料水トナシ弘法大師ノ池ト
稱セリ

アツテ茶釜

大字中河内ノ出郷椽木峠ノ民家深見弥三郎宅ニアリ賤岳ノ役ニ秀吉
ノ長驅スルヤ全家ニテ休憩シ與ヘラレタルモノナリト傳フ其釜ハ桐
花並干瓢ノ紋ヲ刻セリ尙此時鎗一振ヲモ賜ハリシト云フ

東野左馬助ノ墳墓

大字東野親世普境内ナル丘上ニアリ東野豊前守正五位上行重以下三
世ノ墳墓タリ環ヲスニ木柵ヲ以テシ周圍二間四方アリ同東野家由緒
系譜等ハ次ニ詳述スベシ
清和天皇一貞純親王一經基一滿仲一頼信一頼義一義家一義忠一爲義
一行家一光家一行光(光家ヨリ行光マテ六代ノ間未詳)一吉行一吉澄一澄行一行重(東野家元祖)

東野家由緒
祖先 行重

東野家ハ清和源氏ノ後裔ニシテ源爲義十三世ノ孫ニ行重ナルモノア
リ父佐竹豊前守澄行ト号シ世々常陸國ニ領主タリシガ行重ニ至リ江
州伊香郡東野ニ封セラレ東野豊前守正五位上ニ叙爵セラレタリ然ル
處親族(兄又ハ叔父ノ由)佐竹右京太夫義昭ナルモノ郷里常陸國ニ於テ小山
合戦ノ砌陣亡セシ報ニ接スルヤ行重俄ニ厭世ノ志ヲ起シ出家シテ叡
山座主トナリ東宗法師ト号ス既ニシテ幕府ノ命ヲ蒙リ再ビ還俗シテ
舊ノ如ク伊香郡東野ニ領主トナリ邑三千貫ヲ食ムコレ即東野家ニ於
ル元祖ナリ

(行重ノ還俗セシハ出家セシ爲メ家門ノ沒收サル、ヲ憂ヒテナリ)

毛受兄弟墓誌

滋賀縣令籠手田安定君與余相善一日竟然來謂余曰我嘗按部抵柳瀬先訪毛受兄弟當控摠之時克守母訓互重義終同代其主勝家殿戰却敵屠腹就死處莫知之者適一人導入于榛莽中指一所曰即是也視之厯累石以表之耳乃酌酒枚淚拜跪而吊焉嗚呼元龜天正之際猛將悍卒斬級塞旗之手不乏其人然而至忠孝勇如二人者則罕見其比我欲建之墓以激發天下之忠孝命工治石今告竣功請子誌之余深感君之志因暢其言如此時贊君襄事者中屬武田春天十四等出仕小山政德也

明治九年四月

水口栗園 中村 蘇 謹撰

彦根翠巖 川瀬 行藏 謹書

村口家ノ祖先

系譜畧

往昔村上天皇ノ第三子村上播磨守(口碑ニ傳フニ村上播磨守ト號スルハ村上天皇ノ第三子爲平親王彼ノ安和ノ變以後同親王ノ世評ヲ忌マセラレ播磨守ト稱セラレシト)此地ニ渡ラセ給シハ則チ天祿三年

生業

本村民ハ農業ヲ主トスルモノ最多數ニシテ樵業之ニ次グ

現住者職別表

種別	人員	種別	人員
農	三〇九八	僧侶	二三

工	商	雜	官	教	神
一	九	四	六	七	二
醫	樵	定	日	村	
夫	業	業	役	場	
二	〇	一	二	六	

地質

礫土(秩父古生層)

產物

本村ノ主要產物ハ木炭木材米藪等ナリ

產額表

米	三千三百三十一石	麥	百九十八石
豆	二千四百四十三石	雜穀	十七石
根菜	五万三千三百貫	蔬菜	五百五十貫
蔬菜	百貫	果實	一萬六千八百貫

茶	四十貫	桑	五万貫
繭	九百石	生糸	五十貫
蚕種	二千九十九枚	木材	二千七百才
木炭	二十四万五千七百貫	薪	二十五万貫
酒	百四十石		

交通

國道

北國街道ハ越前國南條郡堺村ヨリ來リ椽木峠(俗ニ虎杖越ト云フ)ヲ越エテ本村大字中ノ河内、椿坂、柳ヶ瀬、小谷、今市、東野ヲ經テ余吳村大字中ノ郷ニ入ル

縣道

敦賀街道ハ大字柳ヶ瀬ノ北端ヨリ北國街道ニ岐レ越前國敦賀郡愛發村大字刀根ニ達ス俗ニ刀根越ト云フ

北國街道大字東野ノ中央ヨリ西ニ向ヒテ岐レ大字國安文室ヲ經テ二

道ニ分レ一ハ東ヨリ山路ニ向ヒテ進ム十町程ニシテ余吳村大字川並ヨリ來レル里道ト合シテ權現越ニ達ス一ハ西ニ向ヒテ進メハ即チ秋葉越ナリ此二道ハ塩津村大字祝山ニ達ス坂路險難ナリ之ヲ西近江路ノ發端トス

集福寺越ハ大字池原ヨリ塩津村大字集福寺ニ達スル坂路ナリ

白浪越ハ大字小谷ヨリ丹生村大字摺墨ニ達スル坂路ナリ

長野尾越ハ大字中ノ河内ノ南方ヨリ越前國敦賀郡池ノ河内ニ達スル坂路ナリ

丹生村大字針川ヨリ來リテ大字中河内ニ達スル道路險難ナル坂路アリ之ヲ上古ノ北國街道ナリト稱ス

鐵道(北陸線)

南ハ余吳村大字中ノ郷ヨリ來リ大字東野今市小谷ノ地先及柳ヶ瀬ヲ過キ内中尾峠ノ末端ナル山麓ニ至リ墜道ニ入リテ越前國敦賀郡疋田ニ通ズ其墜道ノ延長十二町十九間ナリ大字柳ヶ瀬ニ停車場アリテ交通頗ル便ナリ當地瀛車ノ開通ハ明治十六年ナリ

沿革

上古ハ丹生郷九字片岡郷十二字(坂口下余吳中ノ郷東野今市國安池原文室八戸川並飯浦山梨子並小谷柳ヶ瀬椿坂中河内ノ四字以上二十五字ヲ總稱シテ余吳莊ト云ヘリ

大字文室

村上天皇ノ後裔播磨守ナルモノ天祿三年三月京師ヨリ此地ニ來リ農業ヲ營ミ山野ヲ開墾シ漸々繁殖ス而シテ菅山寺ヨリ天滿宮ヲ迎ヘ移セシヨリ他ヨリ移住スルモノ多ク遂ニ一部落ヲナセリ

大字國安

此地賤岳合戦ノ時全部兵燹ニ罹リシモ漸次回復シタリ

大字小谷

在昔中臣鎌足ノ從者男瀧花ナルモノ此地ニ止リ農業ヲ營ム爾來人民來集シ元暦年間山野ヲ開墾シ漸々繁殖シテ一部落ヲナセリトイヒ傳フ

大字中河内

最初下丹生村ヨリ移住スルモノアリテ山野ヲ開墾シテ漸々一部落ヲナセリト云ヒ傳フ

鹽津村誌

管轄

本村各大字ノ管轄ハ前記各村ト前後同額末ナルヲ以テ之ヲ畧シ只最近ノ管轄ヲ列記センニ文室、東野ハ淀藩ニ屬シ國安、池原ハ保科彈正之ヲ領シ今市ハ膳所其他ハ悉ク彦根藩ニ屬ス
賤岳合戰ノ時全村兵燹ニ罹リ民舍盡ク灰燼ニ歸シ一時衰頽ヲ極メシモ後孜々家業ヲ勵ミ略回復ノ有様ナリシガ明治十五年又々全村島有ニ歸シ大ニ疲弊センガ人民一般勤儉ノ氣風ニ富ムヲ以テ次第ニ回復ノ運ニ向ヒツ、アリ

管轄

本村各大字ノ管轄ハ前記各村ト前後同頃未ナカハ以テ之ヲ畧シ只最近ノ管轄ヲ列記センニ交野、東野ハ淀藩一屬、國安、池原ハ保科領土之ヲ領シ今市ハ膳所其他ハ悉ク彦根藩ニ屬ス
 慶應合戰ノ時全村兵變ニ罹リ民舍盡ク灰燼ニ歸シ一時衰頹ヲ極メシモ後救々家業ヲ勵ミ略回復ノ有様ナリ以テ明治十五年又々全村烏有ニ歸シ大ニ疲弊トシガ人民一般勤儉ノ氣風ニ富ムヲ以テ之ヲ治メ回復ノ速ニ向ヒツ、アリ

鹽津村誌

鹽津村誌

位置

本村ハ本郡ノ西北部ニ位シ東ハ山脈ヲ以テ伊香具村余吳村及片岡村ニ界シ西ハ亦山ヲ以テ永原村ヲ劃リ南ハ琵琶湖ニ瀕シ北ハ越前國ニ界ス

廣袤

極東西 凡三十町

極南北 凡二里拾町

反別及地價

田 二百九十五町七反七畝二十九步

畑 十二萬五千〇七拾六圓九十五錢

六拾九町二反〇〇九步

一万一千〇五十四圓九十九錢

二十九町五反九畝十步

一万九千三百五十二圓十四錢

二千六百六十五町六反六畝〇九步

九千四百八十三圓六十七錢

宅地

山林

雜種 二拾一町三反四畝二十二步
 四百六十六圓八十三錢
 合計 反別 三千八十一町五反八畝十九步
 地價 十六万五千四百三十四圓五十八錢
 其他 二反拾三步
 總計 反別 三千八十一町七反九畝二步
 地價 十六万五千四百三十四圓五十八錢六厘
 舊藩時代石高
 塩津濱 五百四十石四斗五升九合
 岩熊 四百六十三石一斗六升九合
 祝山 三百四十石一斗三升四合
 野坂 二百五十石
 塩津中 六百七十石
 横波 三百石
 余村 四百三十石
 集福寺 三百八十二石

香掛 三百六十五石
 合計 三千七百四十石七斗六升二合
 戸數及人口
 戸數 七百拾四戸
 人口 三千四百六十六人 男 千七百三十五人 女 千七百三十一人
 區劃
 本村ヲ塩津濱、岩熊、祝山、野坂、塩津中、横波、余村、集福寺、香掛ノ九大字ニ分ツ
 地勢
 本村ハ東西短ク南北長クシテ長方形ヲナシ東西及北ハ山脈ヲ以テ囲
 マレ南ハ湖ニ瀕ス土地稍高低アリ
 山
 塩津山ハ行市山脈ニシテ大字塩津濱ノ東方ニアリ其脈南ニ延ビテ琵琶湖ニ達シ東方片岡村余呉村伊香具村ノ境ヲナス
 日計山ハ本村ノ西方ニ聳エ越前ノ國境新道野山脈ニシテ其脈本村ノ西方ヲ南ニ延ビ永原村ニ境シテ琵琶湖ニ達ス此山脈中大字香掛ニ属スル國境ニ近來植林ノ一大事業ヲナシツ、アリ

川

大川ハ新道野山ヨリ發シ大字沓掛ヲ貫流シテ集福寺川ト合シ南流シテ大字余村、塩津中、塩津濱ヲ經テ塩津灣ニ注グ

港

塩津港ハ琵琶湖ノ極北ニシテ藤ヶ崎ト大字月出ノ地先ト相對シテ箕形ヲナシタル一小灣ナリ灣口南ニ向ヒ其廣サ東西十町余アリ波靜ニシテ船舶ノ碇泊ニ宜シク汽船ハ大津港ヨリ日々往復スルアリテ頗ル便利ナリ(此地元陸地ナリシガ往古地震ノ爲メニ陥没シテ灣ヲナセルナリト其年代考フルニ由ナシ)

官衙及公署

塩津村役場

大字塩津濱ニアリ明治十八年七月一日以來塩津濱、岩熊、野坂、祝山ノ四ヶ村聯合シタル塩津濱村外三ヶ村戸長役場ト塩津中、余村、横波、集福寺、沓掛ノ五ヶ村聯合シタル余村外四ヶ村戸長役場トアリシガ明治二十二年四月一日町村制實施ニ際リ全二役場ヲ廢シ其區域ヲ以テ塩津村ト稱シ塩津村役場ヲ置キタリ

木ノ本警察署塩津分署

明治八年ノ創設ニシテ大字塩津濱ニアリ專ラ塩津村永原村ニ屬スル警察事務ヲ處理ス

長濱區裁判所塩津出張所

明治廿六年十月ノ設置ニシテ大字塩津濱ニアリ塩津村永原村ニカ、ル登記事務ヲ取扱フ

學校

塩津南尋常小學校

本村公立學校ヲ創設セシハ明治六年九月ニシテ塩津濱ニ置キ開新學校ト稱ス明治七年三月一新學校ト改稱ス明治九年現今ノ校舍ニ移リタリ明治二十年簡易科味鎌小學校ト改稱シ野坂、祝山ノ設立ニ係ル學校ヲ本校ニ合併シ簡易科ヲ尋常小學校ニ改ム全廿五年ノ學令ニヨリ本校ヲ存續シテ塩津南尋常小學校ト稱ス全廿九年七月本校ニ補習科ヲ置ク

塩津北尋常小學校

本校ハ明治十九年十一月十五日(以前ノ沿革詳ナラズ)ノ創立ニシテ本

塩谷は本神社の東方なりしが承平年中屢々大地震して岩石破裂し山岳崩壊して谷を埋め地相全く變して塩泉忽ち止りけり然るに又祝山村に初て塩質温泉涌出す蓋し同山脈にして距離近ければ塩谷塩泉の泳化なるべし是れ病者に効ありしが康安貞治の頃或人此にて馬を洗ひしに奇なる哉此の温泉も止りて出ずなりなき
 往古ハ國司の奉幣したる神社にして皇族武門も崇敬せられて此の事此に略す淺井西郡の總社たり足利義隆北帝を奉じ夜塩津に着し倉卒常社頭に據り燎火を設け帷幕を達らし帝及び諸從を休息せしむ實に北朝の文和元年六月十三日なり則本境内は北帝の行在所と稱すべし而して元龜三年八月明智光秀江北を征むる際し當社其兵燹に罹り社殿諸建物盡く焼却し神地も多く没収せらる是より先き當社既に衰運に傾きしが此の後漸次衰微して遂に一村民有の如くに至れり
 明治九年十一月社格を村社に列し同十七年四月郷社に昇格す
 因に記す塩津神社より南少東に方り江面凡そ四五町を距てたる江涯に上古塩を焼きさる所と云傳へたる畑地あり字を「オホガヤ」と呼びしを後世「オホガラ」と稱す且此の江底に一大釜は沈み在るを舟人等往々

見たりと稱し猶應永年中僧天間祝山村乃洞春庵に居り曾て塩谷の塩泉及び祝山の塩質温泉の舊事實を熟聞して常に追美嘆稱したりしが後に丹生谷に至り一寺を創建して塩谷の山名を移して以て塩谷山洞壽院と号しけり然るに近江志略日本名勝地誌等に洞壽院の寺傳を載せて天間丹生谷に居ると一年にして山谷より塩泉湧出するを以て名くと云へり是れ本を失ひて末を存したる説なるべし明治の御代に至て祝山の村民等温泉の舊跡を探り同村の長谷川助五郎の宅地を大に穿掘したりと雖も其効ありしなき

香取神社

香取神社ハ上古當郡余村字生巳ニ經津主神垂跡座シマシ余村中村西村ノ産土神トシテ茲ニ勸請シ掛取大神ト崇メ奉レリ是ヨリ世ヲ經テ香取大明神ト改メ八皇第五十代桓武天皇ノ御宇延暦八年五月上旬七日間空中ニ虹ノ如キ光明輝キ其中ニ幣帛ヲ拜セリ然ルニ此七日目ニ至リテ洪水山ヲ拔キ水勢溢ル、ニ隨テ生巳ノ社流出シ中村ノ田間ニ至リテ止リ給フ神託ニ因テ宮ヲ營ミ爾後此所ニ勸請セリ其田地主洪水ノ前日翌朝植ルベキ苗ヲ配リ置キシニ該社流出シ此田ノ中ニ止リ

給ヒシ時苗一夜ニ杉木ニ變生シタリト云ヒ傳ヘ今ニ氏子ノ農民田植ノ時前日ニ當リ田ニ苗ヲ配リ置ク事ヲ爲サズト云フ此地往昔ハ香取ノ莊、香取ノ浦ト唱ヘシハ下總國香取神社ト同神ニテ香取大明神ト改稱以來香取ヲ以テ莊名浦名トシタリト云フ又當國志賀ニ都ノアリシ時帝ノ鹽ヲ運ビ給ヒシヨリ鹽津莊ト稱シタリト云フ往昔ハ當地祝山村野坂村モ共ニ當神社ノ氏子ニシテ四ヶ村ノ產土神ナリシガ慶長十八年祝山村ハ當神社ヲ分靈シテ香取神社ト稱ヘ野坂村ハ別八幡神社ヲ勸請シテ各產土神トセリ故ニ往昔此兩村ヨリ當社ヘ參路ノ跡今猶口碑ニ殘レリ明治二年十月一日鹽津神社ト改メ明治五年五月二十日又香取神社ト改稱セリ

下鹽津神社

下鹽津神社ハ入皇第十七代三年四月己ノ日巳ノ上刻仁德天皇及菟道稚郎子集福寺村字荒谷小松嶽小稻森ニ鎮座シ給フ其願主集福蘇翁當方靈所上ノ大常宮ト唱ヘ祭リ其二子集福彦男其三子集福男連ト申シテ二靈所下ノ大常宮ト唱ヘ奉レリ是ヨリ入皇第六十代醍醐天皇昌泰二年江州淺井郡鹽津莊ト唱ヘ天台吉祥山集福寺時ノ社坊大法深ト申

者華族今出川大納言公明卿ノ御子ニテ熊野三所大權現ト改名シ亦入皇第六十一代朱雀天皇承平三年右大法深ノ弟子法深坊ヘ天拜御許容ノ上御祈禱仰付ラレ其砌下鹽津神社法深坊ヘ下鹽津莊五ヶ村並境内七町四方ヲ御書キ下シ玉ヘリ亦入皇第一百一代永享四年寅二月小松山下鹽津神社ヘ御祈禱仰付ラレ御書下ニ社坊吉祥山集福寺法師並ニ社家中ヘ御祈禱ニ丹誠ヲ抽キタル段御滿悅ノ思召ヲ以テ小松山下鹽津神社ヘ從五位ヲ贈ラレ大社ニ取リ立テラレタリト云フ

八幡神社

八幡神社ノ口碑傳説ニ曰ク往昔ハ十八ヶ村ノ立チ合ヒ社ニシテ鹽津中村字大森ニアリキ其後余村、鹽津村中、祝山村、野坂村四ヶ村ノ立チ合ヒ社トナリ慶長十八年故障アリテ神休五休ノ内四休ハ祝山村ニ一休ハ野坂村ニ取リ分レタリケレハ野坂村ハ一社ヲ創建シ八幡神社ト申シ奉リシハ即コレナリト云フ

日吉神社

本社ハ元龜年間兵燹ニ罹リ記録燒失創立由緒詳ナラズト雖比叡山山王大權現ノ分社ニシテ祭神七休ヲ奉齋シタリ其頃本地垂跡說主張セ

地蔵堂	不依地藏菩薩	應昌寺境内佛堂	中
藥師堂	藥師如來	淨光寺境内佛堂	濱
藥師堂	全	鹽津	中
阿彌陀堂	阿彌陀如來	横波	村
阿彌陀堂	全	余	村
大日堂	大日如來	藥師堂境内佛堂	中

淨光寺

淨光寺ハ往古天台宗ニシテ京極近江判官高詮甥高雄當地ニ落住シ天台宗ノ末流ヲ汲ミ剃髮シテ名ヲ善慶ト改メ法泉坊ニ住職セリ堂宇ハ現在堂宇ノ東北ナル高地ニアリシト云フ今ハ畑地トナリタル其宇ヲ法泉坊ト云ヘルヲ以テ知ルベシ後黒谷派ニ改メ寺号ヲ應淨寺ト改メ復々文明三千卯年四月上旬本願寺第八世蓮如上人北國巡錫ノ際大津近松ノ坊ヨリ出テ船ニ乗リ鹽津ノ濱ニ着シ應淨寺ノ門前ニ至リ石ニ腰ヲ掛ケテ休憩セリ(其石今尙存セリ)當寺善慶覺ヘズ門ヲ出テ靈儀ヲ見

福玄寺

テ驚嘆シ引テ院ニ入り座ヲ拂テ茶菓ヲ供セリ上人則チ爰ニ數日滯留シテ他力ノ奥儀ヲ談ズ善慶肝心シテ弟子トナレリ依テ上人ハ山海風致民心ノ趨勢ヲ洞察シ當寺ヲ中山トシ六字ノ名号ヲ染筆シテ之ヲ賜ヒ亦自ラ山号ヲ法泉山寺号ヲ淨光寺ト改メ玉ヒ之ヲ檀柱ニ彫リ置キ玉ヘリ然レモ柱ハ其後火災ノ爲メ燒失セリ

德雲寺

福玄寺ハ往時佐々木四郎高綱ノ末孫竹越助左衛門近綱當地ニ居住ノ宿縁アリケレバ本願寺顯如上人ニ歸依シ釋明爲ト改メ天正八年一宇ヲ創立セリ則チコレナリ

法顯寺

德雲寺ハ往古天台宗比叡山延曆寺ノ末派タリシガ文祿四年二月中興ノ僧宗玄眞宗ニ歸依シ轉宗セリ

蓮通寺

法顯寺ハ延寶六年僧祐玄ノ創立ニカ、レリ

蓮通寺ノ縁起ニ曰ク元暦ノ昔木曾義仲源範賴義經ト當國粟津原ニ戰

ヒ之ニ死シ其子義隆世ヲ厭ヒ其從臣ト共ニ高島郡海津中村ニ盤居シ隣村ヲ所領トセリ義隆晚年ニ及ビ佛法ヲ信セシガ偶々土御門天皇承元元年本願寺開山親鸞上人遠流ノ宣旨ヲ蒙リ京都ヲ出テ大津ヨリ乘船シ海津ノ濱ニ着セシ時義隆好機ヲ得若所ニ至リ之ニ面謁シ其教ヲ奉シ子弟ノ誓約ヲ立テ名号ヲ乞ヒ終ニ海津願慶寺ノ住持トナレリ之レヲ願慶寺中興開基ト稱セリ然ルニ義隆ノ子義順一向宗ヲ大ニ擴張シ當地ニ來リコ、ニ一寺ヲ創立セリコレ則チ本寺ナリト云々

洞春庵

洞春庵開祖忽仲天問禪師ハ越南國麗尾村龍澤寺開山梅山開本大和尚ノ弟子ニシテ御歳三十拾九ノ時師ノ命ニヨリ化縁ノ爲メ此ノ庄ニ來リ至ヒ中村ニ及ビ頃日暮レ如何トモ爲シ方ナク小字鏡田ニ存在セル岩上ニ於テ端坐觀法アリシニ夜半常山ニ住メル大蛇美女ト化シ禪師ノ下ニ行キ菩薩戒ヲ受ケ感喜ノ余リ禪師ヲ請シ一字ヲ建立シ長ク教化ヲ受ケシコトヲ仰ケリ故ニ翌朝此地ニ轉錫シ玉ヒ大蛇ノ請ノ如ク一字ヲ建立セリ時ニ應永拾年ナリキ名ケテ蛇谷山洞春庵ト号シ玉ヘリ其後天正拾壹年兵亂ノ爲メ大破シ諸堂並ニ書畫寶物等悉ク滅亡セ

リ后元祿元年庫裏ヲ建立シ夫ヨリ後安永二年大開有麟大和尚法地起立シ同曆七年ニ本堂鐘樓土藏等ヲ再建セリ

祝山寺

祝山寺ハ元祿三年ノ建立ナリ

應昌寺

應昌寺ハ往古ハ禪宗臨濟派ニシテ一休和尚ノ師タル西京紫野大徳寺前住教特賜大機弘宗禪師退隱シテ當寺ニ住居シ正長元年戊申六月二十七日世壽七十七歳ニシテ遷化セリ依テ今尚禪師ノ位牌及墳墓等境内ニ存在セリ昔時ハ相應ノ伽藍ナリシガ應仁以來戰亂相續キ其際ニ至リ天台宗濫妨ノ爲メ堂宇殘ラズ灰燼荒廢セリ元龜年間織田氏越前ノ朝倉氏ヲ征伐ノ頃軍勢ヲ率テ當寺ノ門前ヲ騎馬御通行ノ折柄忽然恰モ空中ヨリ突キ落サル、ガ如ク三度マア落馬セリ之レ必ズ故アラントテ土地ノ人民へ御尋問アリシニ村民ノ曰ク彼ノ寺ノ門前ニアル古大木ノ下ニ在ル鎮守ハ荒神ニシテ昔時ヨリ云ヒ傳フルニハ茲ノ神前ヲ如何ナル人ニテモ乘馬等ニテ通過スレバ必ズ荒神ノ御咎アリト答フ茲ニ於テ織田氏信向ノ念ヲ起シ近郷阿閉村正法寺ニ退休アリ

直ニ伊香郡丹生村大字菅並洞壽院ノ前往天阜榮繁和尚ヲ招キ斯ル靈地ヲ荒蕪ニ附スベキニアラズトテ更ニ境内及山林等除地ノ令ヲ下シ且廢寺ヲ再興セシム以來豊臣氏及徳川氏ニ至ルモ同ク山林入反歩屋敷壹反四畝五歩並ニ寺祿等ヲ下シ給ヘリ而シテ今尙連綿相續ス彼ノ荒神ト稱スル鎮守ノ上ニアル古大木ハ維新ノ際ニ至リ山林上地ノ部分ニ属シ該祠ハ當寺ノ境内ニ移レリ亦洞壽院前往天阜榮繁和尚ハ正法寺ヲ去リ當寺ニ移リ臨濟派ヲ曹洞宗ニ改メラレタリ

正應寺

正應寺ハ正應三寅年六月ノ創立ニシテ永平第七世等理以一大禪師ノ開基ニカ、レリ爾後兵燹ニ罹リ退轉ニ及ビシガ永正元年正月五日石室羊和尚再興シテ萬松寺ト改號セリ其後元和未年十一月廿八日昌山桂和尚龍徳寺ト改號シタリシガ又零落ニ及ベリ以上三寺號ノ間三百五十九年ナリキ其後正保二酉年二月十日越本山第二十六世良義禪師再創シテ正應寺ト復號セラレタリ

德寶寺

德寶寺ハ延享二年獨孝師和尚本山正應寺第八世ノ創立セシトコロナ

古跡

河野通治、通言、通繩ノ戰沒地

河野通治ハ延元二年三月六日通言、通繩ハ延元元年十月十一日鹽津村ニテ戰沒シタリト云ヒ傳ヘテ大字余村正應寺ニ左ノ位牌今猶現存ス

(表面)

河野通治

河野通言

河野通繩

(裏面)

治 延元二年三月六日

言 全 元年十月十一日

繩 全

戰沒於當山中

施主越前木保村

正應十六世大舟代

河野慈舟居士

七里半切抜

鹽津ヨリ敦賀マテ新川ヲ堀リ高瀬舟ヲ通シ物貨運送ノ便利ヲ開カシ
 ト欲シ工事ヲ計畫シ徳川氏ヘ請願セシハ江戸ノ人幸阿彌伊豫同長貞
 松田招齊ト云フ三人ナリ享保十一年(西曆千七百二十六年)其願ヲ採用セラ
 レ湖邊村々ニ命セラレ紀州ノ奉行并澤彌兵衛江戸ノ旗下千種清右衛
 門ノ二人ニ巡見ヲ命セラレ三間ノ大竿ニテ湖面ト陸地ヲ測量セラレ
 シニ鹽津濱ヨリ集福寺背掛ノ落合橋ノ下ニテ土地ノ水面ヨリ高キコ
 十三丈七尺ナリ新川ヲ堀ルニ大凡川底ハ幅三間水脚三尺トシ濱口ハ
 五間トスルノ人夫ハ二千六百人土ヲ取ルコ百三十九万坪ノ見込ニ
 テ此願ハ差止メラレタリ(近江名跡案内)

人物

鹽津氏

京極丹後守ノ臣鹽津外記ト云フ者アリ其子孫三世外記ト稱シ天正年
 中織田氏ニ仕ヘ安土城下ニ病死ス桑實寺ニ外記ノ墓アリ
 熊谷氏
 熊谷直朝ハ蓮生坊直實四世ノ孫ニテ鹽津ヲ領ス世ニ近江熊谷ト云フ

生業
 其孫直純備中守トナリ足利義政ニ仕ヘ時政ノ非ヲ諫ムレモ聽カズ去
 テ京極氏ニ仕フ
 本村ハ農業尤モ多數ニシテ商業之ニ次グ
 現住者職別表

種別	人員	種別	人員
農	一七三二	醫師	二
工	一一〇	舟夫	六〇
商	一九〇	樵夫	一一〇
雜業	二三〇	漁夫	四〇
官吏	七	遊藝	二
教員	一二	定雇	五〇
村役	七	日雇	八〇
會社	一	無職	三〇
神官	五	僧侶	三九

地質

砂質壤土(第四紀古層)

産物

本村ノ主要産物ハ薪米桑材木等ニシテ漁獲物亦少カラズ

産額表

米	五千九百三十四石	麥	百石
豆	五十石	雜穀	十五石
根菜	五万五千貫	蔬菜	一万五千貫
鹹果	五百貫	果實	二千二百二十貫
茶	五百二十貫	桑	七万六千八百貫
繭	千二百七十石	生糸	百一貫
木材	四十八万六千六百才	薪	百五十万貫
木炭	三万八百貫	瓦	四万三千七百八十五枚
織物	三十反	酒	百三十石
水産物	千百五十七貫		

交通

里道

塩津港道ハ大字塩津濱ノ南端湖岸ヨリ起リテ大字塩津中、余村、香掛ヲ經テ越前國敦賀郡ニ達ス之ヲ新道野越ト稱シ俗ニ又香掛越ト稱ス
 其他東ニ通スルニ大字祝山ヨリニツニ岐レテ坂路アリハ權現坂ニテ余吳村大字川並ニ至ル一ハ秋葉越ト稱シテ片岡村大字文室ニ至ル
 又西ハ岩熊峠ヲ越テ永原村大字八田部ヲ經テ大浦道ニ達ス尙大字横波ヨリ永原村大字山門ニ至ル小坂路大字集福寺ヨリ片岡村ニ至ル坂路等アリ東南ニ通スル間道ハ大字塩津濱ヨリ地獄峠ヲ越エテ伊香具村大字飯浦ニ至ルアリ

水路

大字塩津濱ヨリハ琵琶湖邊ノ各地ヘ日々舟楫ノ便アリ然レモ汽船ノ便ハ海津、今津、勝野、堅田、大津等ナリ

沿革

本村ハ南ハ湖邊ヨリ北ハ越前國敦賀郡ニ連リ湖邊ニハ塩津濱及岩熊アリテ外七大字ハ何レモ山間ニ僻在セルヲ以テ俗ニ之ヲ塩津谷ト稱ス

シ又塩津中、余村、横波、集福寺、香掛ヲ上塩津ト云ヒ野坂、祝山、塩津濱、岩熊
ヲ下塩津ト稱セリ

大字塩津濱

村祖及開村ノ時代ハ得テ考フ可カラズト雖モ近世マデハ微々タル寒
村ニ過ギザリシガ維新以來敦賀港ニ達スル道路ヲ開キ湖上ノ水路皆
此地ニ通シ日ヲ追フテ繁盛ニ赴ケリ

管轄

徳川幕府以來塩津濱、祝山、香掛ハ郡山藩柳澤修理大夫ノ支配ニ属シ集
福寺、余村、横波、塩津中、野坂、岩熊ハ豊橋藩松平刑部大輔ノ支配ニ属シ以
テ王政維新ニ至ル

永原村誌

又塩津中、余村、横波、集福寺、青掛、上塩津ト云ヒ野坂、祝山、鹽津濱、岩熊
ノ下塩津ト稱セリ

大字鹽津濱

村祖及開村ノ時代ハ得テ考テ可カラズト雖モ近世マデハ散々タル寒
村 過マデリンガ維新以來敦賀港ニ達スル道路ヲ開キ湖上ノ水路皆
此地ニ廻シテ、進フテ繁盛ニ赴ケリ

管轄

徳川幕府以來鹽津濱、祝山、青掛ハ郡山藩御評理太夫ノ支配ニ屬シ集
福寺、余村、横波、鹽津中、野坂、熊ハ豊後藩松平尉部大輔ノ支配ニ屬シ只
テ正政維新ニ至ル

永原村誌

永原村誌

位置

本村ハ本郡ノ西部ニ位シ東ハ一帯ノ山脈ヲ以テ鹽津村ニ界シ其半南ハ琵琶湖ニ瀕ス西ハ連山ヲ以テ高島郡海津村及劍熊村ニ界シ南ハ琵琶湖ニ瀕シ北ハ越前國ニ界ス

廣袤

極東西 凡二里二拾一町

極南北 凡四里二十三町

反別及地價

田 三百四十五町七反九畝二十六步

畑 十四万五千六百七十八圓九十三錢

田 百三十八町七反四畝十三步

畑 二万一千二百三十四圓六十三錢

宅地 三十八町九反一畝十八步

二万四百三十一圓六十一錢

山林	二千六百四十八町七反五畝十七步 一万四千八百十九圓
雜種	二十三町二反四畝二十九步 六百三十六圓八十九錢
合計	反別 三千百九十五町三反六畝十三步 地價 二十万二千八百五圓七十八錢
其他	四反五畝四步
總計	反別 三千百九十五町九反一畝十七步 地價 二十万二千八百五圓七十八錢
舊藩時代ノ石高	
大浦	八百六十石
菅浦	四百七十三石
月出	六十一石三斗五升七合
山田	五百四石二升七合
小山	三百四十六石六斗六升六合
八田部	七百六石一斗七合

戶數及人口

戶數	九百二十五戶
人口	四千二百四十一人
	男 二千二百二十八人 女 二千百十三人

區劃

本村ヲ大浦菅浦、月出、八田部、山田、小山、山門、中村、庄村、黒山ノ十大字ニ分

地勢

本村ハ東西短ク南北長クシテ四、字形ヲナス東西及北方ハ一帯ノ山脈ヲ以テ劃リ其山脈南ニ延ビテ東西兩角ヲナシテ湖ニ突出シ一ノ港灣ヲナス

山

𤙖字岳ハ大字黒山ノ西ニアル高島郡峯山ノ山脈ナリ高島郡劍熊村大字小荒路ニ至ル嶮難ナル坂路アリコノ山脈ハ南湖岸ニ起リテ北大字庄村中村山門ノ西ヲ經テ越前國愛發村大字山中ノ邊ニ至リ東ニ走リテ塩津村ノ地先越前國界ニ連ル

頭ヶ岳ハ𤙖字山脈ニシテ本村ノ西北隅越前國境ニ聳エタル高山ナリ神山ハ大字庄村中村ノ東ニ當リ塩津村ト境スコノ脈勢ハ南北ニ延長シ北ハ越前國界ニ至リ南ハ岩熊越月出越ヲ經テ琵琶湖中ニ突出シテ葛籠尾崎ヲナス此神山ノ半腹以下ノ一小丘ヲ駄馬山ト稱シテ全山赤緒ナリシガ近來土砂昇止ノ工ヲ起シ滿山一面ニ松苗ヲ植付ケタリ

川

大浦川ハ越前ノ國ノ山間ヨリ發シ大字山門ノ中央ヲ貫キ大字庄村ヲ過キ八田部川ト合シ南流シテ大字大浦ニ至リ琵琶湖ニ注グ
八田部川ハ大字八田部ノ山間ヨリ發シ西流シテ大浦川ニ合スル一小川ナリ

港灣

大浦港ハ琵琶湖ノ北端ニシテ東ハ字黒島西ハ大崎トノ境ヲ以テ南ニ向ヒ一小灣トナセリ其廣サ東西凡十町アリ常ニ波靜ニシテ船舶ノ碇泊ニ便ナリ
菅浦及月出ハ共ニ琵琶湖ニ瀕シテ一小港ヲナシ舟楫ノ便アリ

脚

葛籠尾崎(十折尾崎)ハ大字菅浦ノ地先ニアリテ湖中ニ斗出シ塩津灣ト大浦灣トヲ兩斷セル所ナリ近ク竹生島ニ相對ス其距離湖上僅ニ拾八町餘ナリ一名ヲ月出崎トモ云フ

官衙及公署

永原村役場

大字大浦ニアリ明治十八年七月一日以來月出八田部山田小山ノ四ヶ村聯合シタル八田部村外三ヶ村戸長役場ト菅浦大浦黒山庄村中村山門ノ六ヶ村聯合シタル大浦村外五ヶ村戸長役場トアリシカ明治二十二年四月一日町村制實施ニ際リ全二役場ヲ廢シ其區域ヲ以テ永原村ト稱シ永原村役場ヲ置キタリ

學

大浦尋常小學校

明治七年大浦村孤立シテ本校ヲ創設シ新稱學校ト稱セシガ十六年二月大浦學校ト改稱セリ全十九年小學校令實施ノ際區域ヲ廣メ黒山ノ一大字ヲ合セ簡易科小學校ヲ置キシガ全廿一年四月尋常科トナシ廿五年九月小學校令改正ニ基キ尋常科トナシ拾五坪ノ増築ヲナシ大浦尋常小學校ト稱ス

庄村尋常小學校

明治七年三月當時ノ學制ニ基キ初メテ庄村獨立ノ三省學校ナルモノヲ設置セリ明治十九年十一月一日學制ノ改正ニ據リ明治七年三月ノ設置ニカ、ル隣村ノ山門、中村聯合ノ環翠學校ナルモノヲモ合併シ一ノ簡易科小學校ヲ新設シテ簡易科庄村小學校ト稱セラレタリ而明治廿一年四月一日尋常科ニ改メ後明治廿五年十月一日小學校令ノ改正ニ基キ更ニ之ヲ庄村尋常小學校ト改稱セリ

八田部尋常小學校

本校ハ舊八田部ナル八田部小學校山田ナル遊正學校小山ナル貫徳學校ノ三校ナリシガ明治十九年九月一日該三校ハ自然廢校トナリ改正后更ニ八田部舊校舍ヲ以テ簡易科八田部小學校ヲ設置シ山田小山二

大字ノ兒童ヲシテ通學セシメタリ明治廿二年四月一日簡易科八田部小學校ヲ廢シ八田部尋常小學校ト改稱ス

菅浦尋常小學校

明治八年四月菅浦村獨力ヲ以テ本校ヲ創設シ菅浦學校ト稱ス爾後明治十九年十一月學制ノ改正ニ據リ簡易科菅浦小學校ト改稱セラレ後明治二十五年九月一日小學校令ノ發布ニ基キ更ニ菅浦尋常小學校ト改稱セラレ現今ニ至ル

月出尋常小學校

本校ハ明治八年十二月ノ創立ニシテ當時稱福壽寺御堂ヲ教場トセシガ其翌年八月校舍ヲ新築セリ其後明治十九年十一月學制ノ改正ニ據リ簡易科月出小學校ト改稱セラレ後又明治廿五年九月一日小學校令ノ發布ニ基キ更ニ月出尋常小學校ト稱シ現今ニ至ル

神社

社	號	祭	神	社	格	所	在	地
八幡神社		應神天皇		村社		大		浦

白	神	八	稻	山	日	山	日	蛭	愛	八	豐	稻	秋	秋	依
山	明	幡	荷	神	吉	神	神	子	岩	幡	受	荷	葉	葉	葉
社	神	神	神	神	神	神	神	神	神	神	神	神	神	神	神
伊	天	豐	不	倉	不	天	天	天	山	大	火	應	豐	豐	不
井	照	受	稻	稻	稻	山	山	山	末	國	產	神	受	受	大
冊	大	大	魂	魂	魂	根	根	根	主	主	主	天	大	大	主
命	神	神	神	神	神	神	神	神	命	命	命	神	神	神	命
無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無
格	格	格	格	格	格	格	格	格	格	格	格	格	格	格	格
社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社
菅	山	山	山	山	山	山	山	山	菅	菅	全	全	全	全	全
菅	菅	菅	菅	菅	菅	菅	菅	菅	菅	菅	菅	菅	菅	菅	菅
浦	田	田	田	田	田	田	田	田	浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦

四一九

小	保	日	五	八	白	神	日	稻	赤	天	神
林	良	吉	社	幡	山	明	吉	荷	崎	明	明
神	神	神	神	神	神	神	神	神	神	神	神
社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社
大	淳	大	玉	玉	伊	伊	伊	伊	伊	伊	伊
山	仁	山	依	依	非	非	非	非	非	非	非
昨	天	昨	荒	荒	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊
命	皇	命	命	命	命	命	命	命	命	命	命
無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無
格	格	格	格	格	格	格	格	格	格	格	格
社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社
菅	菅	菅	菅	菅	菅	菅	菅	菅	菅	菅	菅
菅	菅	菅	菅	菅	菅	菅	菅	菅	菅	菅	菅
浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦

四一八

八幡神社(大浦)

八幡神社ハ明和八年民家火災ニカ、リシ節古記録焼失セシヲ以テ由
縁ヲ知ル能ハズ

保良神社

保良神社ノ傳説ニ曰ク天平寶字八年十一月ノ創立ニ係リ初メ人皇第
四十七代淳仁天皇大和國平城ニ在ス時皇居御修繕アラセラル、チ以
テ天平寶字三年十一月當菅浦ノ地ニ行宮ヲ造營シ保良宮ト稱シ給ヒ
同五年十月ヨリ翌年五月マデシハラク茲ニ遷都アラセラレ此月平城
ノ皇居御修營竣功セシヲ以テ還御シ給ヘリ天皇當地ノ行宮ニ在セシ
時一日親ヲ榊ノ木ヲ以テ御躬並ニ后妃ノ御肖像ヲ彫刻アラセラレテ
宣言スラシ朕何處ニ壽ヲ終ルモ神靈ハ必ズ此ノ肖像ニ留メ置クベシ
後チ朕ガ形見トシテ齋キ祀ルベシト故チ以テ當地ノ村民ハ今ニ於テ
榊ノ樹ヲ伐採スルヲ禁ヨ若シ誤テ薪材等ニ混伐スルモ火ニ投ズルコ
トヲ敢テセズト云ヘリコレ當社ヲ創立セシ由縁タルベシ其舊蹟ハ部

ノ中央ニアリテ此邊ノ小字ヲ内場ト稱シ其近傍チ一名在所トモ云ヘ
リ東ニ菩提所長福寺及蹴鞠射的場等ノ舊蹟アリ北山上ニ陸墓アリ西
ニハ寶藏ノ舊蹟アリ南ニ近侍四位五位ノ舊第アリ又部落ノ四陸ニ四
足門アリシガ今ハ南北ノ二門ノミ存ス尙ホ部落ノ東陸ニ一名神宅ト
稱スル小字アリ此所ニハ素ト若宮ト稱スル一小社アリテコレ天皇ノ
皇子ヲ祭リシ所ナリシガ今ハ保良神社ノ境内ノ傍ニ末社トシテ鎮座
セリ又舊蹟地ヨリ南約廿町ヲ距ル所ニ葛籠尾ト稱スル山嶺アリテ茲
ニ塚アリ周圍三十間計リ其狀下部ハ一基ニシテ上部ハ二分セリ是レ
天皇ノ御母堂正三位太夫常麻山背及御后妃ノ墓所ナリト曰ヒ傳ヘリ
部民此地ノ小字ヲ稱シテ一名鉄穴ト云フ又此塚ニ登ル路ヲ葬禮道ト
云ヒ其下ニ牛葬埋ト云フ所アリコレ天皇ノ御玉體ヲ率キタル斃牛ヲ
埋葬セシ所ナリト云ヘリ其他口碑ニ傳フル者アリ天皇當地ニ御行在
中皇子ヲ乳母ニ付セラレ八田部ノ地ニ於テ御養育遊ハサセラレシ時
一日天皇筋カニ忍ビ出デ給ヒ八田部ニ幸キシ給フコトアリ其時當地
ト山田トノ間ナル阪路ヲ攀テ給ヒシニ元ヨリ小路且峻峻ナレバ親ヲ
玉體ヲ這ハセ給ヘリ故ニヤ今此所ヲ還阪ト稱スト云ヘリ次テ天皇山

田ニ出デサセラレ甚ダ御疲勞遊ハサレ村民又太郎ト云フモノ、家ニ御休憩アラセラレ御手ヲ洗ヒ水ヲ飲マセ給ヘリ其清水ノ井今尙現存シ汚物ヲ洗フコトヲ戒ムト又同家ニハ其時天皇ヨリ賜ハリシモノナリトテ代々家ニ傳ハルモノアリ白糶ノ大小二口ト二首ノ古歌コレナリ今尙函ニ納メテ其家ニ存在セルト又初メ天皇當地へ御遷都ノ砌御船ニ召シテ航海シ給フニ北風暴烈ナリシカバ湖東ニ船ヲ寄セラレタリ此所ニ一戸アリ名ヲ太郎ト云フ依テ其家ニ至ラセ給ヒシハラシ御休憩アラセ給フ其時太郎ニ姓ヲ王濱ト賜フ後故アリテ王ノ字ヲ改メ大濱ト稱セリト故ニ未ダ王濱ト書セシ古書類存セリト云ヘリ此ノ時此地ニハ唯太郎ノ家一戸ナリシカドモ後チ子孫繁殖シテ大濱村ト稱セリト即チ現今ノ東淺井郡大鄉村大字大濱是レナリ天皇ノ御陸墓ナリト稱スルハ小字碑カ谷ニアリ其形狀正方形ニシテ石垣ヲ以テ積ミ立テ五輪ノ塔形ニ築造シ其上段及四周ニハ老樹森々トシテ繁茂セリ初メ天皇平城ニ遷御シ給ヒ尋テ天平寶字八年十月上皇ノ命ヲ以テ帝ヲ廢シ淡路ニ遷サレ一小宮ヲ作リテ幽閉セラレ給ヒシガ天平神護二年二月ヨリ國守ノ警戒甚ク嚴ニシテ他人ノ出入ヲ禁セリ天皇憤

鬱ニ堪ヘ給ハズ同十月宮垣ヲ踰ニ逃レ給ヒシニ國守佐伯宿彌助兵ヲ以テ邀ヘ宮ニ入レ奉レリ明日遂ニ宮中ニ於テ崩御アラセ給ヘリ御近侍ノ人々皆ニ御尊骸ヲ葛籠ニ入レ奉リ湖上ヲ渡リテ菅浦ニ至ラントシ葛籠尾崎ニ上陸シ來リ御尊骸ヲ葬リ奉リ茲ニ五輪ノ陸墓ヲ築キ奉レルモノナリト云ヘリ其近侍ノ遺臣ハ此地ニ留リ子孫尊敬シ奉リシト又依テ其遺臣ノ家ニ傳ハリシ給旨院宣等ノ古書類數十通現存スルモノアリ又其末裔アリト云フ家數戸アリ天皇崩御ノ後ハ五十年毎ニ大祭典ヲ行フノ式例アリ其年祭ノ標札現存セルモノ三枚アリ錄スルニ一千年祭ヲ寶曆十四年十月十日ニ千五十年祭ヲ文化十年三月十日ニ千百年祭ヲ文久三年三月十日ニ執行セリト又本社ノ再建修營ヲ執行セル標札ノ存スルモノ五枚アリ錄スルニ元和八年三月寛永十四年二月天保三年十一月ノ三度ニ再建ヲ延寶二年寶曆七年五月ノ兩度ニ修營ヲ執行セリ而シテ其最後ノ再建ニハ領主本多主膳正ヨリ其費用トシテ金貳拾兩獻納アリシト云フ

白山神社(山田)

白山神社ハ御鎮座ノ時日往古ノ事ナレバ記簿類無シト雖往古ヨリ連

綿當村人民一般ノ氏神ナリ

神明神社(山門)

神明神社ノ創立ノ由緒及沿革等ノ古記録ハ當社境内ニアリシ正脉院ト稱セシ寺院ニ保管セシモノナリシガ同院ハ明治四年中廢寺ニ屬セシヲ以テ其頃該記録筆散乱紛失セリ依テ中古以往ノ事ハ詳知スルテ得ザレドモ書ニ傳フル所ニ依レバ中古ノ再建ハ永徳三年十一月ナリト口碑ニヨレバ創立ハ尙其以前ニテ最モ古神社ナルベシト

日吉神社(庄村)

日吉神社ノ御鎮座ノ時日往古ノ事ナレバ何等ノ記録ナシト雖往古ヨリ連綿庄村中村ノ氏神ナリ

稻荷神社(黒山)

稻荷神社ハ天文四癸未年三月ノ創立ナリ

神明社(山田)

神明社ノ御鎮座ノ時日等ニツキ一モ記録ナシト雖往古ヨリ村民一般ノ崇敬セシ神社ナリ

佛閣

本照寺	阿弥陀如来	真宗大谷派	大浦
正願寺	全	全	全
西得寺	全	全	八部
應善寺	全	全	全
願成寺	全	全	小山
願心寺	全	全	全
長敬寺	全	全	全
聞明寺	全	全	全
永教寺	全	全	全
覺傳寺	全	真宗本願寺派	黒山
運敬寺	全	全	大浦
安相寺	全	全	菅浦
稱福寺	全	全	八月
圓光寺	全	全	山田
長縁寺	全	真宗佛光寺派	山門

光隆寺	阿彌陀寺	遍照寺	善隆寺	祇樹院	增光寺	洞雲寺	深高院	正福庵	德圓寺	良昌庵	正見寺	真藏院	東光院	成就院	藥師堂
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
時宗遊行派	真宗佛光寺派	曹洞宗	釋迦如來	馬頭觀世音	觀世音菩薩	千手觀世音	藥師如來	十一面觀世音	藥師如來	藥師如來	藥師如來	藥師如來	藥師如來	藥師如來	藥師如來
菅浦村	大浦	菅浦	山門	中山門	中山門	中山門	中山門	中山門	中山門	中山門	中山門	中山門	中山門	中山門	中山門

地藏堂	地藏堂	地藏堂
地藏菩薩	地藏菩薩	地藏菩薩
阿彌陀如來	阿彌陀如來	阿彌陀如來
阿彌陀寺境内佛堂	正見寺境内佛堂	增光寺境内佛堂
田	山	山

本照寺

本照寺ハ延徳元酉年僧空了ノ創立ナリ釋空了ハ蓮如上人ノ法弟ニシテ常隨給仕セシカバ延徳元年九月十三日實如上人ヨリ寺号ヲ本照寺ト給ヒ本尊大品六字名号ヲ賜ハレリ第二世丁誓ハ顯如教如面上人ニ歸依シ越前攝州石山紀州鷲ヶ森及關ヶ原等兵乱ノ際ニ當リ面上人ノ難苦ヲ見テ門徒ヲ引率シ身命ヲ惜マズシテ屢軍功アリケレバ顯如上人御使用ノ金襴五條ノ袈裟一領金同紋同色ノ七條一領修多羅水晶念珠並ニ顯如上人ノ影像ヲ賜ハリ又石山本願寺退去ノ時教如上人ヨリ眞筆ノ消息竹形手鎗長刀等八品ヲ賜ハリタリ而シテ阿彌陀木佛ハ了誓ノ陣中佛ナリ以上ノ舊記寶物等現今尙保存シ上人ノ御忌ニハ古例ニ依テ年々忌リナク拜領ノ法衣ヲ着用シ消息ヲ拜誦セリト云フ

正願寺

正願寺ハ天文十五年僧慶恩ノ創立ニシテ古ヘ天台宗ノ末派ナリシガ
文明三年眞宗ニ轉セリ

長敬寺

長敬寺創立ノ由緒ハ其當時ニ於ケル古記録等中古焼失セルヲ以テ之
ヲ知ルヲ得ザレバ中古傳來ノ記録ニ依レバ長祿三己卯年僧願誓ノ創
立ニ係レリト云ヘリ

覺傳寺

覺傳寺創立ノ由緒ハ其當時ニ於テ之ヲ録シタル古書類天正二年ノ頃
祝融ノ災ニ罹リタルヲ以テ詳知スルヲ得ズト雖モ古傳口碑ニ依レバ
文明五年僧祐善ト云フ者一寺ヲ創立シ黒山寺ト号シ天台宗ニシテ寺
内ニ坊舍若干アリシト云ヘリ又小谷ノ城主淺井氏ノ祈願所ニシテ寺
領三百石ノ朱印ヲ賜ハリシト云フ其後天正二年淺井長政ノ時織田信
長ト隙アリ信長小谷ヲ攻撃ス其時當寺ノ僧侶奴僕等舉テ長政ノ加勢
ニ赴キタリ既ニシテ淺井氏ハ利アラヌシテ信長ノタメニ城ヲ陥ラレ
タリ其後當時ハ淺井家ヘ味方シタル故ヲ以テ信長手勢ヲ黒山ニ遣シ
寺坊及民家等ヲ悉ク燒キ拂ヒ寺領モ沒収セラレタリ當時ノ住僧某詮

方ナキヲ以テ身ヲ隠クシ潜居シタリシガ尋テ信長石山本願寺ト確執
ノ時ニ當リ石山ヘ赴キ籠城シテ本願寺ノ味方トナリ展戦功ヲ立テシ
カバ本願寺ヨリ褒詞ヲ賜ハリシ事アリソレヨリ眞宗ニ歸依シ天台宗
ヲ改メテ眞宗ノ門ニ入りタリ大阪落着ノ後ハ再ビ舊黒山ニ歸リ依然
トシテ職ヲ襲ヒ黒山寺ノ号ヲ改メテ覺傳寺ト稱シ本願寺末トナレリ
後徳川氏ニ至リ境内地九十坪ヲ除地トセラレタリコレ其縁由アルガ
故ヲ以テナリト云ヘリ

開明寺

開明寺ハ永正七年僧教誓ノ創立ニカ、レリ

永教寺

永教寺ハ慶長二年僧教祐ノ創立ニカ、レリ

蓮敬寺

蓮敬寺ハ明慶二年僧了通ノ創立ニカ、レリ

安相寺

安相寺創立ノ由緒ハ據ルベキ記録ナキヲ以テ詳ナナラズト雖宗祖見
眞大師第八世ノ法孫惠燈大師法弟僧教圓ノ文明十一年五月十日ニ創

立シタルモノナリト云フ

稱福寺

稱福寺ノ古傳口碑ニ曰ク聖武天皇南都大佛殿御建立ノ初當地ニ於テ梵鐘ヲ鑄造シ給フニ不思議ノ事アリテ一寺ヲ創立シ給ヒ無量光院ト号セリト云フ然レモ其後數百ノ星霜ヲ經テ既ニ廢頽ニ及ベリ爰ニ仁治元年辛丑年信願房教念ト稱スルモノ即宗祖見真大師ノ弟子廿四輩第十三番ノ真弟ナリ上洛ノ節此地ニ錫ヲ留メ公ノ讓リヲ受ケテ是ヲ再興シ真宗ノ道場トナシ後又關東ニ下向シ所々ニ堂宇ヲ創立セリト云フ其子願淨ハ如信上人常隨ノ弟子ナリ弘安元年如信上人常陸國大綱ヨリ上洛ノ時法物隨身シテ供奉セリ下向ノ初近江國伊香郡別所村ノ池中ニ於テ如信上人放光ノ佛面ヲ得又靈告ニ依テ一字ヲ茲ニ建立シ一尺ノ木釋ヲ作リテ彼ノ佛面ヲ体中ニ籠メ之ヲ願淨ニ授與セリ是ヲ而籠ノ如來ト名ケテ其第三世成信ハ覺如上人ノ弟子ナリ建武騷亂ノ節別所村ニ住居シ難キ故アリテ祖父信願房ノ古跡ヲ慕ヒ月出村ニ移住シ道場ヲ改メテ崇光寺ト稱ス然ルニ人皇九十八代ノ帝ヲ崇光天皇ト稱ス故ニ崇光寺ノ号ヲ禁セラレシニ依リ稱福寺ト改号セリ天正

十一年豊臣秀吉賤岳へ進軍ノ初當寺ノ僧香築ト云フモノ糶米運送等ノ助勢ヲナシタルガ爲メニ秀吉ヨリ褒詞ヲ賜ハリ且當時小地ノ故ヲ以テ大豆四十石米印ヲ賜ヒ尙其他軍器等モ若干賜ハリシト雖現今ハ唯大鼓一個及書類等ヲ保存スルノミ後西院天皇第四ノ皇女賀子内親王寶鏡寺宮發願ニ依リ享保十三年七月上旬代々ノ御靈牌ヲ納メ祈願所ト定メ給ヒシ故ヲ以テ以來年々當今ニ至ルモ毎月一日十五日ノ兩日祈願經ヲ讀誦スルコト傳來ノ武法タリト云フ因ニ記ス享保十三年七月寶鏡寺宮靈牌ヲ納メ給フ時稱福寺ト書シタル自筆ノ扁額ヲ賜ハリ又御紋付ノ幕提燈並ニ鶯色ノ法衣類ヲ許サレタリト云フ

圓光寺

圓光寺ハ天正九辛巳年二月二十二日僧宗理志願ニテ開基セリ

長緣寺

長緣寺ハ天文十四乙巳年七月善休ノ創立ニカ、レリ

光隆寺

光隆寺ハ永祿七年ノ開基ニシテ泰乘ノ創立タリ

阿彌陀寺

阿彌陀寺ノ創立山緒ハ據ルベキ記録ナキヲ以テ詳ナラスト雖文和二年八月二十日遊行第七代訥訶上人ノ創立ナリト云フ後寛政二年堂宇及諸記録等焼失セリ又當地ニ長福寺善徳寺ノ二ヶ寺アリシガ無住無檀ニテ持續シ難キヲ以テ明治八年當寺ヘ合セタリ

善隆寺

善隆寺ハ往昔天台宗ニシテ庄村ノ里和藏ト云ヒシ處ニアリシガ天文三年當宗ニ假シ已後山門村ニ移住セリ法孫經光上人ノ法弟善了ノ開基タリ

祇樹院

祇樹院創立ノ山緒及沿革等ハ據ルベキ記録ナキヲ以テ詳ナラズト雖明徳四年本寺正應寺第七世僧夢ノ創立ニカ、レリト云フ

増光寺

増光寺ハ天文十九丙戌年僧惠珍ノ創立ニカ、レリ

洞雲寺

洞雲寺ハ宗祖道元禪師第二十二世法孫僧靈山明普元丁丑年ノ開基創立ニカ、リ其後弘化四丁未年春大破ニ及ビ再建セリ

深高院

深高院ハ宗祖道元禪師第十五世法孫實達僧天文十六丁未年ノ創立ニカ、リ其後寛政七癸丑年堂宇建物等悉皆烏有ニ歸セシヲ以テ全九年九月再建セリ

正福庵

正福庵ハ宗祖道元禪師第十三世ノ法孫玉僧天文八己亥年ニ創立セリ

徳圓寺

徳圓寺ハ宗祖道元禪師第十五世法孫僧舜達慶長年中ノ頃本尊ヲ一寺ニ取リ立テタリ

良昌庵

良昌庵ハ宗祖道元禪師第十七世法孫僧正玉寛政七庚申年四月三日ニ創立セリ

真藏院

真藏院ハ當宗開山弘法大師在世中ニ創立セラレシト云ヒ傳ヘタリシガ享和三年九月十一日祝融ノ災ニ罹リ舊記ヲ失シテ以テ詳ニ知ルコト能ハズ

東光院

東光院ノ創立ハ不詳ニシテ慶長十五年僧長順中興セリ

古跡

豊臣秀吉祖先ノ墓

大字山門八十二番屋敷地續キ竹林中ニ石櫃アリ之ヲ名ツケテ秀吉祖先ノ墳墓ナリト云フ近江名所圖會ニ曰ク豊臣秀吉公ノ先ハ江州淺井郡山門ノ住僧後遷俗シテ尾張國愛知郡中村ニ住居シテ國吉トイフ云々

古城趾

大字庄村ノ東大字八田部ノ北方山脈中ニ神山ナルモノアリ此峯ニ平地アリテ今猶城壁ノ形跡アリ人傳ヘテ淺井長政ノ城址ナリト云フ蓋シ近江名所圖會ニ云フ永原城ニハアラザルカ

淳仁天皇ノ陵

大字菅浦ノ西北ニアル村社保良神社境内是ナリ社地東西六間半南北二十五間半此ノ面積百三十四坪境内石ヲ敷キ詣メタリコノ社ハ天平寶字五巳年十月ノ頃淳仁天皇當地へ遷ラセ給ヒ其後寶治八辰年ニ行

在シ給ヒ其冬再遷御シ給フ是ヨリ先キ自ラ御像ヲ寫サセ給ヒ一字ノ寶殿ニ安置シ給ヘリト今代ニ至ルマデ當地ニ四位五位ヲ冠セル家名アリシモ故ナキニアラズ然レモ維新前之ヲ廢セシメラレタリ今ニ氏神トシテ村民崇敬篤ク穿物ヲ穿チテ境内ニ立入ルコトナク又他チシヲ之ヲ犯サシムルコトナシ又一説ニ行在所ノ古跡ハコ、ヨリ尙五十町余東方ノ山間ナリトモ云ヘリ例年四月三日祭禮ヲ行フ異例實ニ見ルベキモノアリ

生業

本村民ノ大部分ハ農ヲ專業トシ傍ラ養蚕製絲ヲ營ムモノ多シ商業ハ唯生産物ノ集散ト需用品ノ供給ニ止ルモノナルガ故ニ專業トスルモノ稀ナリ

現住者職別表

種別	人員	種別	人員
農	七六四	村役場雇	四
工	一三	僧侶	七九

商	業	一八	醫	一五
雜	員	一二	舟	一
教	歷	八	漁	三
定	職	三六	樵	八
日	職	二四		

地質
砂質壤土(第四紀古層)

產物
本村產出物ノ主要ナルモノハ米生糸繭薪柴其他水產物等之ニ次グ大
字菅浦ヨリハ特ニ枇杷ヲ產ス

米	六千三百四十四石	麥	百四十八石
豆	三百五十石	雜穀	五十五石
根菜	一万九千七百九十六貫	蔬菜	二万五千五百三十四貫
鹹果	一万一千六百二十九貫	果實	千四百貫

茶	一千五十六貫	桑	一万三千九百八十五貫
繭	一千二百五十一石	生糸	三百五十二貫
蚕種	七百九十枚	木材	百方才
木炭	三万七千五百貫	薪	五万八千七百十貫
酒	百五十石	枇杷	三百六十二貫
水產物	二千八百四十九貫	蜜柑	八百貫

交通

里道

大浦道ハ大浦湖岸ヨリ大浦川ニ沿ヒテ大字庄村ヲ過キ大字山門ヲ經テ鹽津道ニ合シ越前國敦賀町ニ通ズ之ヲ大浦越ト稱ス
其他鹽津村ニ通スル間道ハ大浦道ニ岐レテ東シ大字八田部ヲ經テ岩熊坂ヲ越ユルアリ又大浦道ヲ岐レテ西シ大字黒山ニ至リ卅字峠ヲ越エテ高島郡ニ通スル道アリ頗ル峻坂ナリ是即チ西近江路ナリ

水路
大字大浦ヨリハ琵琶湖邊ノ各地ヘ日々舟楫ノ便アリ大字月出菅浦ハ

沿革

大浦ニ及ハスト雖モ亦舟楫ノ便アリ

本村ハ菅浦、月出ヲ除クノ外古ハ大浦、船崎、黒山、庄村、殿村、中村、山門、東西八田部、山田、小山ノ諸村ニ分チテ之ヲ長原ノ莊ヲ稱ヘタリ其後何時ノ程ヨリカ殿村庄村ハ併セテ庄村ト稱シ東西八田部ハ併セテ八田部ト稱シ後明治二十二年四月一日ヨリ全部ヲ永原村ト稱セリ

大字大浦

昔遠津大浦ト云ヒ又船崎村ト云フ三代實錄ニ大浦莊ハ近江國淺井郡ニアリトイヘリ (近江名跡案内)

大字菅浦

不詳

大字月出

月出坂ハ一ニ鐘引坂ト云フ八田部村ニ上下スル坂ナルガ往古奈良ノ入此地ニ鐘ヲ鑄テ此坂ヲ引上ルトキ月出タル故ニ名ク故ニ又其麓ニアル里ヲ月出トイヘリ (近江輿地志畧)

管轄

徳川建政以來月出、山田、小山、八田部、山門、黒山及中村ノ一小部分ハ豊橋藩松平刑部大輔ノ支配ニ属シ庄村及中村ハ郡山藩柳澤修理太夫ノ支配ニ属シ八田部、小山ノ一部分ハ麾下彦坂三太夫知行所ノ支配ニ属シ以テ王政維新ニ至ル

明治三十六年八月三十一日印刷
明治三十六年九月五日發行

(定價金六十五錢)

編輯兼
發行者

滋賀縣伊香郡教育會

滋賀縣伊香郡木之本村大字木之本第三百〇六番屋敷

右會長

代表者 林田民次郎

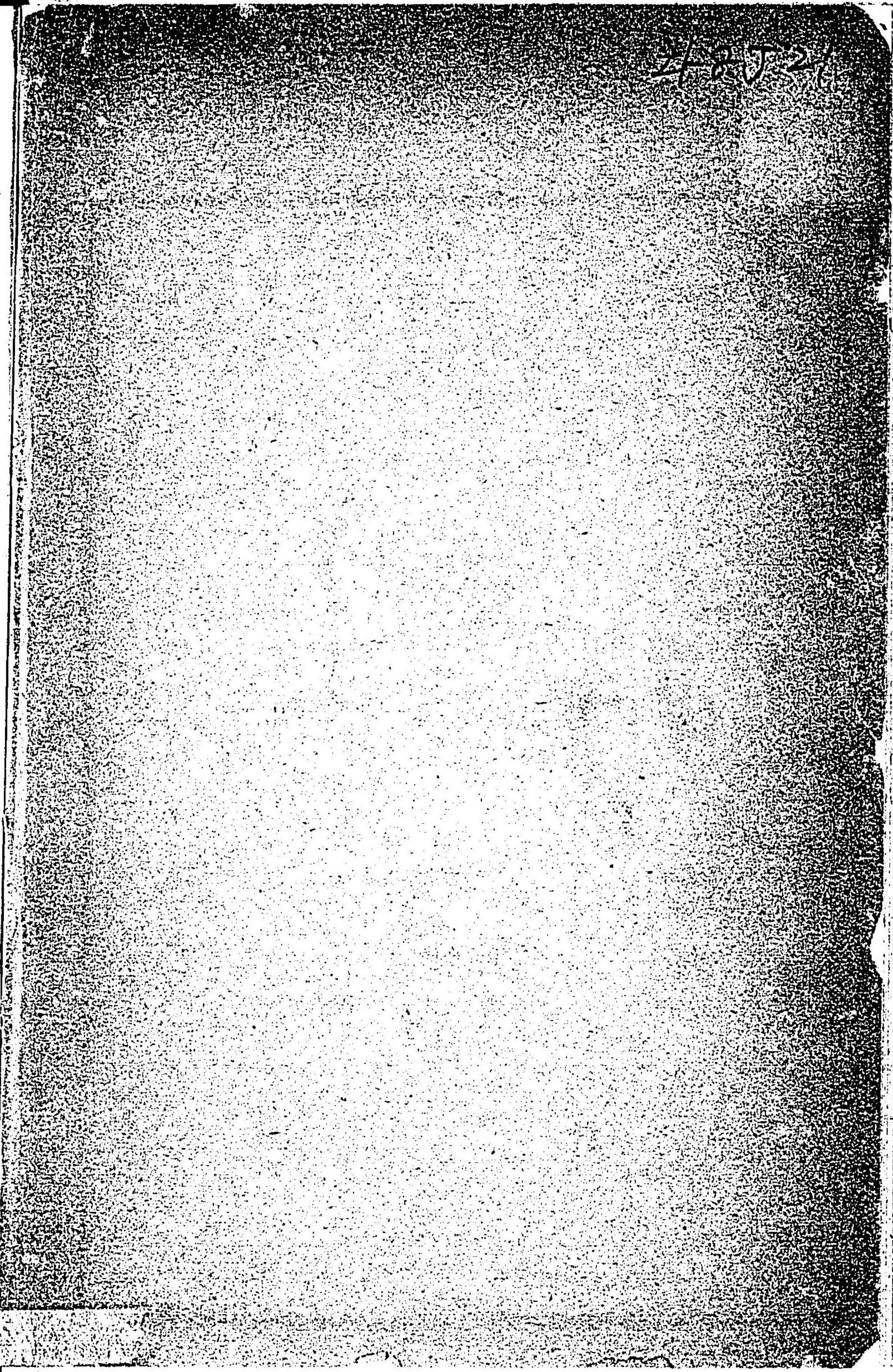
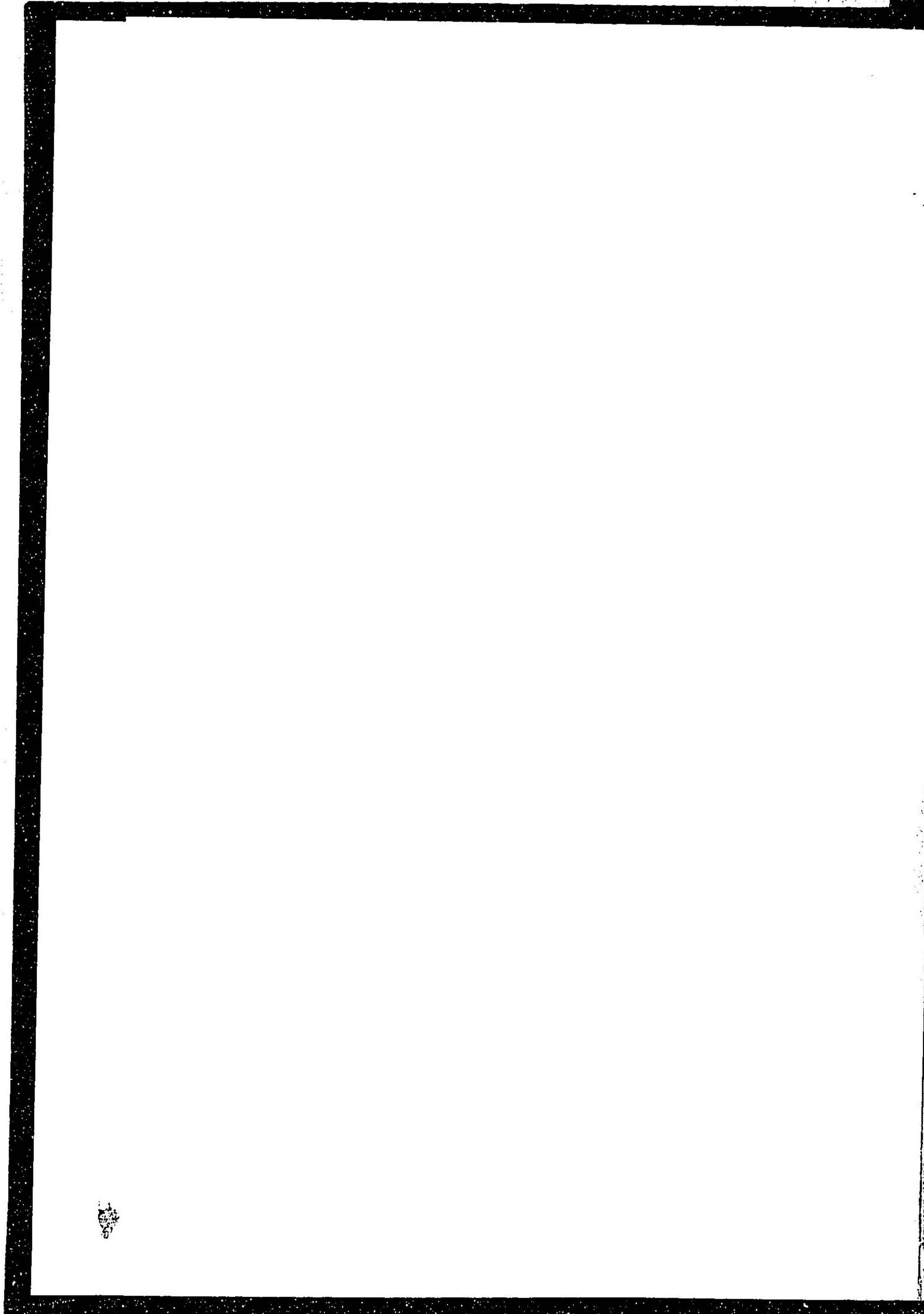
滋賀縣伊香郡木之本村大字木之本
第七拾九番屋敷寄留

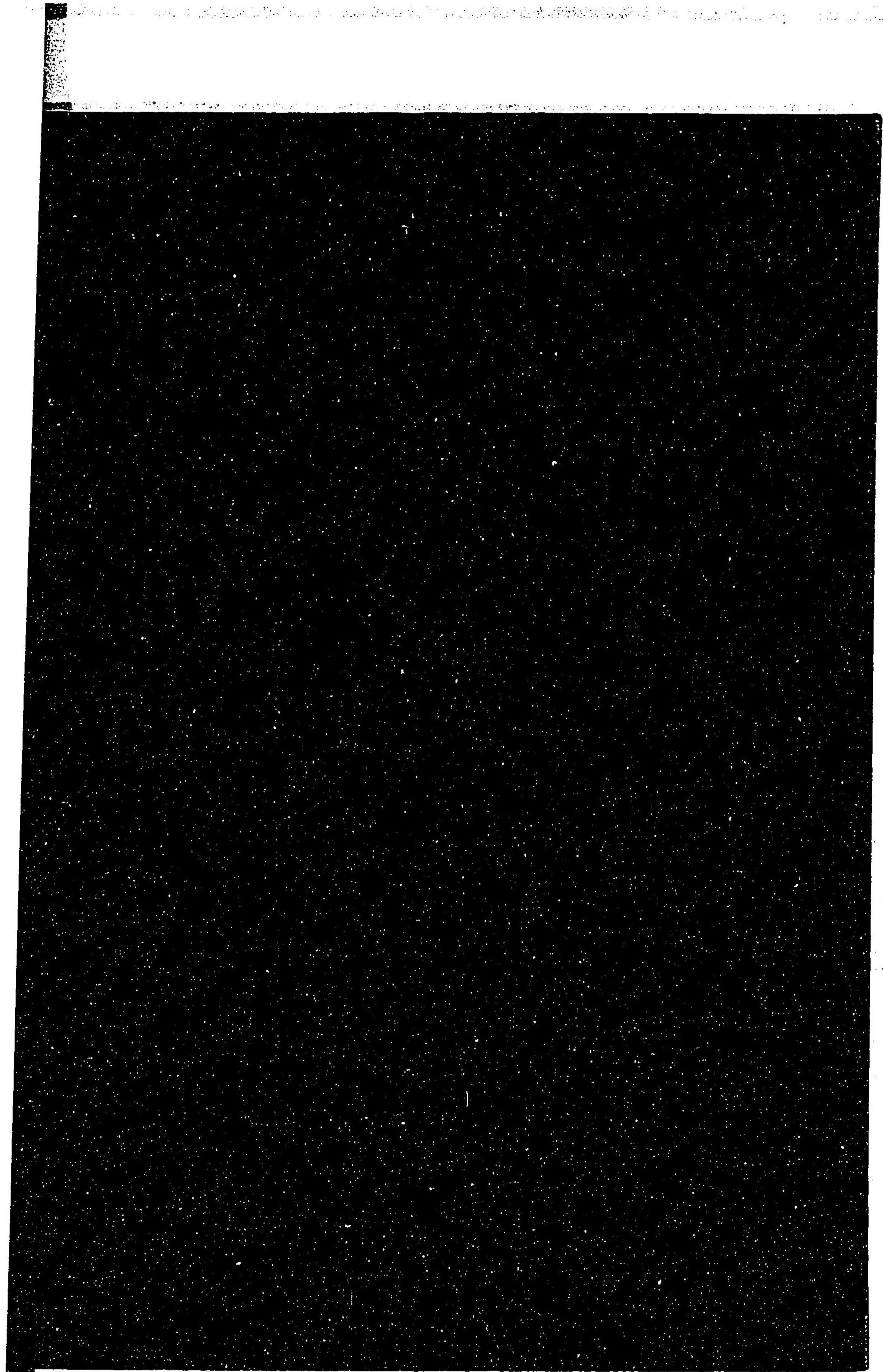
印刷者 淺野兵吉

岐阜縣岐阜市七軒町三百七番戶

印刷所 耕文社

岐阜縣岐阜市七軒町三百七番戶





77

209

025458-000-4

77-209

滋賀県伊香郡誌

滋賀県伊香郡教育会／編

M36

ADC-2912



